

守口市から世界へ 羽ばたけ

プロスノーボーダー
五輪強化指定選手(ハーフパイプ)

A n a i I k k o u
穴井 一光さん(22歳)

2018年~2020年の五輪強化指定選手(スノーボード ハーフパイプ)に選ばれ、2022年北京五輪を目指している期待のスノーボーダーです。

経歴	主な成績
1997年生まれ	2013年 ジュニア世界選手権大会優勝
守口市立梶小学校 卒業	2015年 JOCジュニアオリンピック優勝
守口市立梶中学校 卒業	2018年 世界選手権大会6位入賞
興國高等学校 卒業	2018年 全日本選手権大会3位
株式会社玉越 在職	2019年 全日本選手権大会2位

チャームポイント 細かい目
長所 どんな時も笑顔
短所 せっかち
好きな映画 クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ歌うケツだけ爆弾
好きな漫画 スラムダンク
好きな食べ物 いちご



スノーボードとの出会い

スノーボードをはじめたのは3歳の時、家族でゲレンデに行ったことがきっかけでした。ハーフパイプとの出会いは、冬になるとよく訪れた岐阜県イトシロシャローットタウンスキー場(現在は営業休止)に日本では数少ない本格的なハーフパイプの練習場があり、スノーボードを楽しむ中で自然とハーフパイプに興味を持つようになりました。

プロを目指すきっかけ

プロを目指すきっかけになったのが、小学校3年生の時イトシロシャローットタウンスキー場でスクールの先生をしていた中野智尋(なかのともひろ)プロスノーボーダーとの出会いでした。

身近で、初めて出会ったスノーボードのプロであり自分もいつかはプロのスノーボーダーになりたいと思うようになり、とはいえ、スノーボードの練習ができるのは雪がある冬のみで、さらに穴井家の方針では義務教育期間中は学業優先だったため、練習は週末のみ。当時大会に出ると周りの友達我突然上達していて、いつの間にもんな練習しているのか疑問に思うこともあり、

尊敬する選手との出会い

子どものころは今も尊敬する選手はバンクーバー、ソチの2大会でオリンピック日本代表になった青野令選手です。

小学生の時に、初めて青野選手を見て、その滑りのすごさに虜になり、当時青野選手が使っていた板をマネするなど憧れの選手となりました。

また、偶然にも愛媛県にあった室内ゲレンデで青野選手に出会い、それからはずごくかわいがってもらい、その懐の深さとオリンピックを目指すために誰よりも努力している姿を見て、人間として憧れを抱くようになりました。そんなこともあり、小学校6年生の卒業文集に将来の夢として「令君と一緒にオリンピックに出る」と書いたほどでした。



青野選手との2ショット

強化指定選手

ソチオリンピックが終わり、平昌オリンピックの近づく時期に、大きな壁にぶつかりました。

とあるスノーボードハーフパイプのワールドカップを見て「自分も上に行くためにはこれをしていかないのか。技の順番は違うが皆同じことをやっている。それは自分がしたい滑りではないのではないか…」

そんな気持ちになり、スノーボード競技を辞めようと思い、両親にその思いを伝えました。両親からは「シーズンが始まっているので練習はしないでいいけど大会だけは出てみては。その合間にバックカントリー(雪山の自然を自由に滑ること)など、自分のしたいことやってみては」と言われ、大会には出るもののハーフパイプの練習とは距離を置きました。

そんな中、旅行先でたまたまインスタグラムの投稿を見ていた友達から、「二光オリンピック日本代表の強化指定選手に選ばれてるで!」と言われました。

その前の全日本選手権で3位になっていたものの、まさか自分が選ばれるとは思いません。両親からも「最後のチャンスだから頑張ってみたら」と言われ、今まで応援してくれている両親に親孝行したいという思いと日ごろお世話になっている各スポンサー、後援

- ①BURTON US OPEN Colorado Vari
- ②いつも肌身離さずに持ち歩いてるのが勝尾寺のお守り。毎年両親とともにお参りしています。
- ③④FIS.WORLD CUP Toyota.US Grandprix



会、応援していただいている皆さんにも恩返しができるチャンスだと思い、自分自身、改めて北京オリンピックを目指すこととしました。日本代表では憧れの青野選手がコーチに就任されており、強化合宿でさまざまなアドバイスをもらっています。特につらい練習から逃げ癖があった自分を青野コーチにはすぐに見透かされ、さりげなく声をかけてもらいました。そのかいもあって自分自身でもとても成長できたと感じるシーズンになりました。

スノーボーダーとして

専属のコーチをもたない自分にとつて、コーチは父親になります。いつも家族のみんなを笑顔にさせてくれる面白いお父さんですが、練習中は怒るととても怖かったです。でも今の自分があるのはお父さんの指導を信じてここまでやってきたからだと思っています。

練習は自分で考え、父親と話し合い、その後、青野コーチと相談した上で技の構成を考えていきます。

得意な技は「バックサイドアールーファイブ」です。世界でこの技を大会で出している人はほとんどいません。スノーボーダーとしてのこだわりは人と違うことをやることです。昨今試合に勝つために同じ技をする人が増えてきましたが、自分が得意とするオリジナルの技で勝負したいと考えています。

一光選手にとってオリンピックとは

北京オリンピックに出場し、今までやってきた自分らしい滑りを出しきり、メダルを取ることです。

以前はオリンピックに出てメダルを取ることが最終の目標だと考えていましたが、今はあくまでもスノーボーダーとしての通過点だと感じています。

オリンピックでの活躍により海外の大会に呼ばれたり、マスコミから取材を受けたり、スノーボードの映像を作成したり、世界に穴井一光という名前を残す機会になればと思います。

その中で、自分が楽しむのは大前提で自己満足に終わらないように、周りにもっとスノーボードの素晴らしさを発信して多くの人にスノーボードの楽しさを、プロを志す選手には夢や希望を伝えていけたらと思います。



④